

読書推進運動



公益社団法人

読書推進運動協議会

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町1-32

出版クラブビル 6階

TEL 03(5244)5270

FAX 03(5244)5271

発行人 小塚 昌弘

編集人 片岡 伸子

No.659

★「読書週間」がはじまります！(2頁)

★「野間読書推進賞」受賞者決定(3頁)

定価 60円

会員の購読料は
会費の中に含まれる

日本語を守るのは「読書」

「読書週間」によせて

日本書店商業組合連合会副会長
株式会社正文館書店代表取締役社長春井宏之
はるいひろゆき

日本人の日本語が気になる。最近ではテレビでもネットでもプロのアナウンサーでさえおかしな日本語表現をする。いろいろな職種の専門家が解説をする機会が著しく増えたが、彼らはしゃべりのプロではないので端的な解説にならない。さらに「音」が科学されない時代なので、語尾が聞き取りづらい。日本語にとっては致命的である。

一方で、特に子どもたちがスマホなどを通じて自分たちにしか通じないことばを作り、文字のみの会話をしている。社会経験が浅く語彙も少ないその会話は、まさに言語のままならない原始時代に少数の人々が川のほとりに集まって行なっていた会話？と変わらないと言える。

われわれ出版業界および読書推進活動のための組織に係る集まりは、書物・図書を通じて日本人の知力や民度を上げることが業としている。「読書」は、コミュニケーションの基本であり、ものごとを理解することや、スムーズな人間社会を構築していくのにかかせないことである。日本語で、論理的に表現すること、プロセスを順序だてて構築すること、「書ける」「読める」が「読解する」「わかりあえる」ための必要条件である。あたり前で言いつくされてきたことなのに、今、かなり怪しいと感じる。関係者のみなさんはちゃんと日頃から習慣としての「読書」ができていますか？自分がしてもしないのに周りに求めてもな

も起こらない、心からの必要性を他人に伝えることなくできやしないのではないのか。端的で明快な表現をするためには多様な語彙が必要である。表現されたことばを心情まで含めて読解する。多岐な事象を俯瞰し適切な対応を考える。すべて「読書」でしか得ることができない。本の売上や貸出は数字にできるが、大事なことは実際に読んだのかどうかだ。読書量を数値化して他人に見せるのはむしろかしいが、会話をすれば、その人が本当に本を読んでいるかどうかは、そこそこわかる。今、われわれがするべきことはなんなのか？現状を踏まえてもう一度考えるべきときである。

すべての基本は「日本語の

理解」であり、その理解力は「読書」で育つ。読書推進活動では、「本の日」「読書週間」「読者還元祭」などの新しいチャレンジも始まっている。そして、国語教育としての読書を徹底的に進めることを国を司る人たちにキチンと理解をしていただき、確実に進めてもらうこと。日本人の知力や民度を上げるために、英語が堪能な人材を育てるのではなく、日本語が堪能で英語が理解できる人材を育てること。エンタメ的なイベントなどにも必ずどこかで「読書」につながる仕掛けを施していくことも必要だ。

書店も図書館も取次も出版社も作家さんも為政者も学校の先生も、係が違っても、他人ごとだとか、言っている場合ではない。たがいに協力しあえるところは、力をあわせ、書物・図書を通じて日本人の知力や民度を上げていきたい。

正しい日本語を維持することが、多様なものごとを適正な方向に導く近道である。



本に関わる「ありがとう」の声を 全国で！

10月27日(木)より、「読書週間」がはじまります。今年の標語は「この一冊に、ありがとう」。

ほっこりやさしいイラストに、あたたかみのある字体の標語がびつたりとポストターに、今年も多くのご希望をいただいています。

「図書館だより」などへのポストター画像の掲載は、加工（縦横比率の変更、色の置き換え、画像の切り抜きなど）せずにそのままの形でしたら、問題ありません。SNSへの画像投稿も同様に、加工せずにお願いたします。

ポストターは公共図書館へは各道府県読書推進運動協議会・各都道府県立図書館、学校図書館へは全国学校図書館協議会、書店へは日本出版取次協会の協力により各販売会社を通じて配布しております。部数追加をご希望の施設や団体は、遠慮なく当協議会事務局へお申しつけください。

また、過去のポストターデータの貸出も例年同様に行っておりますので、興味をお持ちの方は事務局

までご連絡ください。

ホームページ「素材集」のポツブやしおり、ブックカバーのデータも公開しております。今後のデータ作成の参考といたしますので、活用事例など、ご意見、ご感想をぜひ、事務局までお寄せください。ポストターのJPEGデータもこちらにあります。

本年も、「読書週間」雑誌広告を用意し、日本雑誌協会の協力により各雑誌出版社へ掲載を呼びかけました。10月1日現在で、17社60誌の協力をいただいております。おもに10月中旬〜11月初旬発行の雑誌に掲載されます。

書店では、先月ご紹介した図書カードNEXTが当たる「読者還元祭」が10月27日よりはじまります。また、11月1日「本の日」キャンペーンとして、参加書店では一般公募による「ブックカバーデザイン募集」大賞作品を用いたブックカバーを使用。その他、店頭「飾り付けコンクール」も予定されています。



今年の「読書週間」ブックカバーデータは2種類です！

全国の公共図書館、図書室で開催されました行事について、「読書週間」終了後に各道府県読書推進運動協議会より報告をいただき、来年4月に本紙別冊付録「行事報告一覧」を発行します。

コロナによる行動制限はありますが、第7波、くるかもしれない第8波と、まだまだ緊張を強いられる方々も多くいらつしやいます。そのなかでも、本と人を結びつけている現場の方々、そして、各地の行事に参加される方々へ、「ありがとう」を送ります。

2022年度・第52回

『野間読書推進賞』決定

9月20日(火)、東京都千代田区の出版クラブビルで行われた『第52回 野間読書推進賞 選考委員会』において、2022年度の受賞者が左記のとおり決定しました。

(敬称略)

《団体の部》

- ・ 萌えぎの会 (群馬県前橋市)
- ・ 近江八幡おはなし研究会 (滋賀県近江八幡市)

《個人の部》

- ・ 渡邊満洲子 (愛知県北設楽郡設楽町)
- ・ 《奨励賞》
- ・ 法崎よし子 (大分県竹田市)
- ・ 《功労賞》
- ・ 山本清治 (鹿児島県鹿屋市)

今年度の野間読書推進賞は、道府県読書推進運動協議会や教育委員会などに受賞候補者の推薦をお願いしました。

いただいた推薦数は、団体の部16 (前年27団体)、個人の部3 (前年2人)。

本年は2年ぶりに、第一次選考会、および選考委員会を対面で開催しました。事業委員会による第一次選考会では事前に委員に資料を送付し、会議当日、各候補者へ

の評価とその理由を討議、選考会に向けて8団体3個人を選出し、選考委員会に提出しました。

選考委員会も、第一次選考会と同じ形式で開催され、慎重な討議の結果、前記の受賞者が決定しました。

団体の部受賞の萌えぎの会は、1974年設立。前橋こども図書館を中心に、保育所、児童養護施設、高齢者施設などでも数多くのおはなし会を開いています。読み

聞かせと歳時記を活動の中心に据え、外部の研修会へも積極的に参加し、後進の育成にも取り組んでいます。オーソドックスで地道な活動ですが、地域に根ざした堅実さが高く評価されました。

近江八幡おはなし研究会の結成は、1961年。子どもたちにはおはなしの世界をもっと楽しんでほしい、市民に子どもの読書の大切さを知ってほしいと、近江八幡市立図書館の利用者が自主的に絵本や児童書の研究会を始めたのが、きっかけです。以来61年間、一貫して子どもたちへおはなしを届け、保護者・教師などへの啓蒙活動を行っています。これまでに開いた研修会の内容がすばらしく、会の高い実力を感じる点も評価を



集めました。

個人の部受賞の渡邊満洲子さんは、結婚して居を構えた名古屋市中で、児童文学の作品研究や読み聞かせの会「波の会」を1972年に結成。1994年に、お連れあいのふるさと、津具村(当時)へ引越し、名古屋時代の蔵書1800冊を家庭文庫「きらきら文庫」を開きました。文庫は渡邊さん在宅時いつでも利用可能。地域の子どもたちの、また、子育て世代の居場所として親しまれています。また、保護者呼びかけで語りの会を結成しています。「本と人との結びつきにとどまらず、本を介して人と人との絆が生まれている」と、高い評価での受賞です。

奨励賞の法崎よし子さんは、34年間保育士として勤務。退職後、「保育士の経験が活かせるのでは」と、竹田市立図書館のボランティアに応募したのが、きっかけです。以来、10年、主に0歳児・就学前幼児と保護者を対象に、絵本の読み聞かせなど続けています。図書

館、幼稚園、ブックスタート会場とおはなし会のはべ500回を越えています。読書推進活動歴はまだ10年ですが、読書の基礎作りである

乳幼児への読み聞かせの重要性、今後の活躍への期待から奨励賞となりました。

功労賞の山本清治さんは、60年にわたり、ご自身の母校である鹿屋市立西俣小学校に図書費を寄附。同校には「山本文庫」が設置され、子どもたちに利用されています。選考委員会では、「100歳までも続けていただきたい」の思いを込めて奨励賞に決定しました。しかし、残念ながら、選考委員会直前にお亡くなりになられたとのことで、選考委員・事業委員長の協議を経て、功労賞となりました。今年度も、全国よりすばらしい候補者の推薦がよせられました。事業委員、選考委員からは、「推薦に際し、この取り組みで地域にどのような変化があったか、どのような反応があったかをもっと紹介してほしい」「団体の部の推薦には、代表者の活動が突出しているところもある。この方たちを個人の部で推薦してほしい」などの意見がありました。

贈呈式は11月7日(月)、午前11時より、東京都千代田区神田神保町の出版クラブビルで開催します。本年も新型コロナウイルス感染症対策として規模を昨年同様に縮小し、贈呈式のみで開催となります。

■教科書協会パンフレット発行

教科書発行の現状と課題を
豊富なデータとイラストで紹介

一般社団法人教科書協会は、パンフレット「令和4年度教科書発行の現状と課題」を8月2日に発行し、ホームページ上で公開している。

このパンフレットは、すべての子どもたちの学びを支える教科書の大切さを伝えるとともに、義務教育教科書無償給与制度の維持などを目的に、教科書発行や供給の現状と課題を提示し、教科書への理解を図るために、毎年発行されている。

パンフレットでは、物価高、少子化に加え、教科書の大判化・ページ数増によって製造コストが増大していること、教科書が子どもたちの手に渡るまでの4年間の工程、普及が進むデジタル教科書・教材制作にかかる工程と費用、教科書のバリアフリー化の現状など



パンフレット表紙

を紹介。また、教科書を利用する際の著作権許諾についての案内も掲載されている。

だれもが手にしたことのある教科書ができるまで、また、すべての子どもたちが学べるための工夫など、案外知られていない「教科書の姿」が見えてくる。

パンフレットはA4判24ページ。全ページPDFを教科書協会のホームページで閲覧、ダウンロードできる。

●教科書協会ホームページ

<http://www.textbook.or.jp/>



グラフ、イラストなどを多用し、データをわかりやすく紹介

■絵本ワールドinふくしま

2年ぶりにビッグパレットで開催！
講演会ほか充実のプログラム

8月24日(土)・25日(日)、福島県郡山市のビッグパレットふくしまで「絵本ワールドinふくしま2022」(主催：絵本ワールドinふくしま実行委員会)が開かれた。今回は入場は自由だが、マスク着用は必須。

両日とも午前中は「すし作家」岡田大介さんが食育に関わる講演会を行った。

『おすしやさんにいらつしやい!』生きものが食べものになるまで』で第27回日本絵本賞を受賞した岡田さんは、自ら釣った魚ですしを握る「すし作家」であるば



絵本ワールド初? さばかれるスルメイカに子どもたちも大注目

かりでなく、食に関わるさまざまな事業に携わっている。絵本を出したのも、「水と塩」以外、すべての食物は元は生きものだったことを知ってほしかったからだという。そして会場の子どもたちにも加わってもらい、スルメイカをみごとにさばいて見せた。

24日の午後は『あらしのように』などの作品で知られる絵本作家、きむらゆういちさんの講演会が行われた。

得意の工作と絵本の朗読を組み合わせた講演会で、大人も子どももいつしよになって楽しい時間を過ごした。『あらしのように』について、アイディアの原点はテレビの『水戸黄門』で、「読者の側だけが真実をわかっているおもしろさ」を書きたかったこと、メイをやぎにしたのは暗闇でバレにくい動物にしかつたから、などの創作の裏話を披露してくれた。

講演会後のサイン会には、ファンが列をつくった。

そのほかのプログラムでは、だれでも簡単に手作りミニブックが



会場では講演会講師の作品なども販売

できる、製本体験のワークショップ「KURUMI」も開催され、家族連れがビデオで工程を通覧したあと、実際にかわいいカバールのミニブックを作りあげた。また、絵本でSDGs推進協会の朝日仁美さんの「絵本で学ぶSDGsおはなし会」も行われた。

講演会の合間には、コロちゃん・ぼくは王さま・にやーご、といったキャラクターとの写真撮影会や、絵本専門士ゆうくんの「おはなし会」、渋沢やこさんの「布の紙芝居」も催され、楽しい読書推進イベントとなった。

なお、9月17日(土)・18日(日)に開催を予定していた「絵本ワールドinこまつしほ」(徳富県小松島市)は、台風の影響により、残念ながら中止となった。

■秋の読書推進月間

『秋の読書推進月間』キャンペーン名称・ポスター決定！

かねてより、出版業界一丸での取り組みとして注目を集めている『秋の読書推進月間』（10月27日～11月23日開催）のキャンペーン名称が応募総数800超の中から次の名称に決定した。

『本との新しい出会い、はじめ。』
BOOK MEETS NEXT

ポスターは、シンプルながら新しい取り組みを象徴したインパクトの強いデザインとなっている。

書店用のポスターには、BOOKスタンプラリーのスタンプ取得QRコードが掲示され、スタンプを5つ集めるとプレミアムな賞品が当たる抽選に応募できる。

スタンプ自体も各出版社の協力で、有名キャラクターが登場するので、コンプリートする楽しさがある。

期間中には、SNSを使った



秋の読書推進月間ポスター

＃ハッシュタグキャンペーンも開催される（こちらのキャンペーンからも抽選に参加可能）。

また、キャンペーンサイトも開設され、「読書週間」をはじめとする読書関連イベント情報や全国の書店が独自に企画する店頭イベントを随時掲載する予定。

その他、キャンペーン初日の10月27日には、東京・紀伊國屋ホールでオープニングイベントが開催され、作家・今村翔吾さんと児童文学者・角野榮子さん、女優・作家の中江有里さんなど豪華なゲストによる講演や対談が行われる。参加費は無料だが、事前の申し込みが必要（先着順）。

●「問いあわせ先」

一般財団法人 出版文化産業振興財団（JPIC）

東京都千代田区神田神保町

2-2-30

Tel 03-5211-7282

・ホームページ

<https://www.jpjc.or.jp>

■国立国会図書館 国際子ども図書館 展示会

多様な国で使用されているスペイン語作品を一堂に

国立国会図書館 国際子ども図書館（東京都台東区）は、展示会「スペイン語でつながる子ども」の本・スペインと中南米から」を、10月4日（火）から12月25日（日）まで開催している。

この展示会では、スペインや中南米出身の作家・画家約40名による子どもの本を紹介。多くの国の公用語であるスペイン語で書かれた、多彩で豊かな子ども本の世

界を楽しめる。

関連イベントとして、9月30日（金）12月25日（日）まで、講演「スペインと中南米の子どもの本」の100年の変遷と今」が、国立国会図書館公式YouTubeチャンネルで配信される。講師は、スペイン語翻訳家の宇野和美さん。対象は中学生以上としている。配信開始から一定期間、視聴者からの質問を受け付けている。

●国立国会図書館 国際子ども図書館ホームページ（展示会ページ）
<https://www.kodomo.go.jp/event/exhibition/tenji2022-03.html>



展示会のチラシ

■「図書館総合展」11月の1か月間開催

オンラインとリアルで図書館についての情報交換を

図書館総合展運営委員会は、「図書館総合展 2022 ONLINE」を11月1日（火）～11月30日（水）の期間、開催する。本年も昨年同様、オンライン、各地サテライト会場を設定してのハイブリット形式で行われる。サテライト会場には30か所以上の各館種図書館・施設・出版社などが参加。館内見学ほか各種イベントを行う。また、カンファレンス会場と題し、11月

5日（土）に機械振興会館（東京都港区）、11月26日（土）に鳥取県民ふれあい会館（鳥取市）で、講演会、会議、交流会、展示などを行う。同展サイトでは期間中を通じて、講演会、座談会、実践報告、ワークショップなどのイベントが配信される。スケジュールやイベント内容・参加方法は同展サイトで確認できる。同サイトでは、はじめて図書館界にふれる人のためのナ

ビゲーション（特集）や、オンラインブースツアー（図書館学研究）者とともに、次々と出展者にインタビュ（などが用意されている。また、希望者には、出展者・企画を一覧できる冊子を配布している。

対象は、図書館に関心を持つすべての人。参加費は無料だが、すべてのコンテンツを視聴するには、「図書館総合展アカウント」への登録が必要。登録すれば、イベント参加証明書発行など各種サービスも受けられる。

●図書館総合展公式サイト

<https://www.libraryfair.jp/>



■野間読書推進賞 受賞者の活動報告

怖いおはなしを迫力満点の声で！
おじいさんたち+αの読み聞かせ

名称の由来

恵庭市の変った名称の読み聞かせサークルを紹介します。恵庭市にはお母さん方中心の絵本の読み聞かせサークルが多いことから、怖い話の絵本や紙芝居などは、男性の野太い声の方が迫力あるので、退職した高齢者を中心に、男声だけの読み聞かせサークルを立ちあげてはどうかと図書館長から勧められ、2004年に「男声読み聞かせ隊」として発足しました。その後、どうしても入りたいとい



なかなか聞くことのないおじいさんの読み聞かせに、子どもたちも集中！

男声読み聞かせ隊 With Ms

(北海道恵庭市)

小山 忠弘

う2名の女性の熱意に負けて、2年後に「男声読み聞かせ隊 With Msのウイズ・ミズ」になりました。現在は男性5名、女性5名で活動し、年齢構成は、80代2名、70代4名、60代2名、50代2名です。

主な活動内容

(1)例会 毎月2回、第2・第4木曜日10時から12時まで、図書館会議室で例会を開催。内容は次のとおりです。

①全員で「外郎売り」の滑舌発声後、各自が読み聞かせに行った場所と読んだ絵本の紹介、および子どもたちの反応などを報告。

②翌月の訪問先と担当者の確認。

③地元のFM放送番組「おはなしの庭」(13分)に出演した担当者が朗読した作品のCDを、全員で聞きます。時間があれば、メンバーが持参した絵本を紹介し、それについてフリートークをします。

(2)実演内容

①絵本の読み聞かせ

(2)紙芝居

居。合唱など(コロナ発症後、施設からの要請により、2年前から活動休止中)。

(4)図書館主催のイベント参加

①毎年8月実施の「図書館開館24時」の行事に参加。18時から24時まで、子どもや一般の入場者に、映像絵本の読み聞かせや幼児・小学生に怖い話などをしていきます。

②毎年10月実施の「図書館まつり」の行事に参加して、一般成人への読み聞かせなどを行っています。

活動が評価されました

①2009年、社団法人読書推進運動協議会から、野間読書推進賞奨励賞を受賞しました。

②2012年、子ども読書活動優秀実践団体として、文部科学大臣表彰を受賞しました。

ふたつの栄えある受賞は、望外の喜びです。

十周年記念誌作成しました

2004年から10年間の活動をまとめた『男声読み聞かせ隊 With Ms 十年の歩み』A4判20ページ、手作りで行いました。

コロナ禍で停止中の活動

①近隣市町村との交流⇄移動例会と称して、近隣市町村の読み聞かせサークルと連携して相互に読み聞かせを行い、終了後懇親会で情報交換をしていました。



毎月2回の例会は、滑舌練習や情報交換の場。活動の充実をつねに目指しています

せサークルと連携して相互に読み聞かせを行い、終了後懇親会で情報交換をしていました。

②春秋2回、メンバーで花見やパークゴルフなどを行ったあと、BBQ・カラオケなどをして懇親を深めていました。

③図書館幹部職員との忘年会で、相互理解を深めていました。

思いは熱く

会員の高齢化の進行によって、他市町村との交流活動の中止や、市内でも遠距離の施設からの読み聞かせの要請を断るなど、次第に活動の範囲が狭くなっています。このユニークな名称の読み聞かせサークルを楽しみに待っている子どもたちのために、存続しなければと熱く燃えています。

優良読書グループの歩み (10)

2021年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。

(順不同)

延永小学校図書ボランティア「としよママ」

代表者 吉田 純子

福岡県行橋市

〈推薦〉
福岡県読書推進運動協議会

私たち「としよママ」は2000年、子どもたちにたくさんの本を届け、読書の楽しさを伝え、豊かな心を育んでほしいという思いから、行橋市内の各小学校への図書司書の配置と同時に結成し、当時の保護者に声掛けをして、数名のボランティアからスタートしました。

最初は、小学校低学年の朝の読み聞かせから活動を始め、数年後には、ボランティアの人数も増え、小学校全学年へと活動の幅が広がっていきました。

結成当初は、読み聞かせで使う本の選書に苦労したこともありましたが、読み聞かせを終えた後に、学年ごとに読んだ本や、そのときの子どもたちの反応などを記録することで、次年度からの選書に役立てるようにしました。

読み聞かせのほかにも、お昼休みのおはなし会を年に4回行うことになり、道具(パネルシアター、ペープサート、手袋人形など)を作成するようになりました。その

おはなし会で使う小道具も手作り!



活動の幅が広がりました。また、自身が作ったものをおはなし会で披露するようになり、さらなる活動の推進に繋がっていきました。

小学校6年生の卒業時には、記録ノートを参考にして、6年間読み聞かせを行った本のリストやおはなし会のプログラム、小学校の先生方からのお勧めの本を紹介した小冊子や、手作りのマスコットなどを一緒にプレゼントしていただきます。

この取組は14年間続けています。中学生になってもプレゼントをカバンにつけている姿を見たり、地域で子どもたちに会ったときに「としよママさん」と声をかけてくれたりすることがあり、とてもうれしく思っています。

近年はコロナ禍ということもあり、以前のように活動ができていませんが、今できることを継続していけたらと思います。

このたび、優良読書グループに

選ばれたことを励みにし、長年の活動を通して関わってくださった多くの方々へ感謝するとともに、これからも地域の方と保護者が一緒に、心豊かな子どもたちの成長を見守りつつ、この活動を続けていきたいと思います。

お詫びと訂正

『読書推進運動』第658号(2022年9月15日発行)の「優良読書グループの歩み」で掲載いたしました、七ヶ浜町おはなしボランティア「あゆみの会」(宮城県)の代表者名に誤りがございました。

誤

代表者〃金子三千子

正

代表者〃金子美千子

ここに訂正し、ご迷惑をおかけいたしましたことを、お詫び申し上げます。(編集部)

2022 第76回 読書週間 10月27日～11月9日

この一冊に、ありがとう





2023年



第65回「こどもの読書週間」

第77回「読書週間」

2023年4月23日～5月12日

2023年10月27日～11月9日

標語募集！

2023年第65回「こどもの読書週間」と第77回「読書週間」の標語を募集します。

この標語は12月中旬に公益社団法人 読書推進運動協議会の事業委員会で選定し、それぞれのポスターに刷り込んで全国の新聞社・雑誌出版社へ、また道府県読書推進運動協議会、都道府県立図書館を通じて公共図書館などへ、全国学校図書館協議会を通じて全国の学校へ、出版取次各社を通じて全国の書店に送られ掲出されます。

第65回「こどもの読書週間」のポスターは、制作体制を一新。たのイラストが登場するのはお楽しみです。秋の「読書週間」は、4～6月に募集するポスターイラストとの親和性を高めるため、この時期に標語を募集します。

これまでの標語は、当協議会ホームページでご覧いただけます。

●「応募要項」

- ①標語案②どちらも、読書の豊かさ、奥深さ、楽しさ、有用性などを新鮮な感覚で表現した未発表のもの。「こどもの読書週間」標語は、子どもの読書を念頭に「応募願います」。
- ②応募用紙③官製はがき、A4判ファックス用紙、メール
- ③応募作品数④「こどもの読書週間」「読書週間」ともに、ひとり3作まで応募可。返却はいたしません。学校など団体での応募は、下選考をお願いします。（入選作の版權は公益社団法人 読書推進運動協議会に帰属）

週間」「読書週間」ともに、ひとり3作まで応募可。返却はいたしません。学校など団体での応募は、下選考をお願いします。

④締切⑤2022年11月15日(火)必着

⑤賞⑥「こどもの読書週間」「読書週間」それぞれに、賞を用意します。▼入選（1作）図書カード1万円分、標語として採用▼次点（2作）図書カード5千円分▼佳作（20作前後）図書カード2千円分

⑥発表⑦入選・次点まで「読書推進運動」1月発行号紙上、佳作は賞券送付で

⑦送り先⑧〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-32 出版クラブビル6階 公益社団法人 読書推進運動協議会

「こどもの読書週間」標語係または「読書週間」標語係（どちらへの応募か明示してください）

・FAX 03-5244-5271
・メールアドレス hyogo@dokusyo.or.jp

件名は「こどもの読書週間標語応募」または「読書週間標語応募」

事務局報告（9月）

- ・5日「子どもの読書の日」ポスターについて、とよたかずひこさん、文部科学省と打ち合わせ
- ・5日「第55回 造本装幀コンクール表彰式」に出席、「読書推進運動協議会賞」を贈呈
- ・6日「上野の森 親子ブックフェスタ」運営員会幹事会に出席
- ・7日「機関紙「読書推進運動」65号 入稿
- ・8日「機関紙「読書推進運動」65号 責了
- ・9日「若い人に贈る読書のすすめ」掲載図書推薦を各道府県の読書推進運動協議会に依頼
- ・9日「機関紙「読書推進運動」別冊「2022年 こどもの読書週間行事報告」の校止を議談社校閲部へ依頼
- ・13日「2022年第76回「読書週間」ポスター 出来
- ・14日「読書週間 ポスター 出来
- ・15日「機関紙「読書推進運動」65号 出来
- ・15日「第55回 優良読書グループ表彰」推薦締め切り
- ・15日「第52回 野間読書推進賞選考会」を開催
- ・21日「第52回 野間読書推進賞」受賞者と推薦人に受賞連絡書面送付
- ・24日「絵本ワールドinふくしま2022」に出席
- ・26日「道府県読書推進運動協議会へ「第55回 優良読書グループ表彰」決定通知を送付
- ・26日「文部科学省へ第76回 読書週間ポスター、趣意書を送付

●編集部・事務局のひとこと

●ありがたいことに、「読書週間」が近づいてくると、毎年、さまざまなお問い合わせをいただきます。この数年多いのは、「読書の秋」について、「唐の詩人、韓愈の詩が由来」とのことですが、なにかご存じですか」と、よく聞われます。

●高校時代、週一回あった漢文の時間。レ点や二点に頭を悩ませ、「こんな必要ないでしょ」と思いながらも、漢詩の名調子、列伝から知る古代中国の政治家や武将のみことな生きたまに支えられ、なんとかやり過ぎました。が、まさかここまで漢詩に縁のある仕事（？）をするとは……。

●私の習った先生は、毎回、その日の授業の感想文を課題とされていました。字数は200字。締め切りは次の授業終了時です。1週間あるのですからさっと書けばよいのに、クラスのほぼ全員が、「次の授業が始まる直前に一気を書く」という謎のルールを自らに課していました。漢文の授業前の5分休み、教室で必死に原稿用紙に向かう私たち。大学受験で必要の小論文や作文ではの対策だったのか、高校生や文ではの対策コッけたのか。その心理はいまだにわかりません。

●しかし、三つ子の魂百までも。「ひとこと」は、毎月（たまに例外あり）印刷会社にてデータを送ります。ひよっとして、私の仕事の基礎は、あの漢文の時間に作られたのでしょうか？

(伸)